農事組合法人 別府東営農組合の取組みについて

当組合は、兵庫県加西市別府町に位置する農事組合法人で、2015年1月に前身の別府東町営農組合が法人化し設立されました。

組合員数は51名、耕作面積は40haと別府東地域の耕作地（50ha）の大部分を集積し、酒米、主食用米、小麦のほか、黒大豆、アスパラガスを栽培されています。

『省力化・効率的な経営を通じて、別府東地域の農業を守り、育てていく』の経営理念のもと、先進的な機械やツールの導入、稲の直播栽培（リゾケア）の導入等による作業時期の分散、作業の平準化・省力化を実現されており、さらなる経営安定化の取組みを進められています。

右から別府組合長、高田理事

当組合において、ＪＡ兵庫みらいを中心に、ＪＡ兵庫信連、農林中央金庫、外部コンサルタントがチームを結成し、担い手コンサルティングを実施しました。

財務分析（品目別収支分析含む）や経営者ヒアリングを通じた事業性評価を行い、経営課題を見える化するなかで、作物の低反収、設備更新、勤怠管理の効率化、事業承継等のニーズを把握しました。

そのうえで、経営者と目合わせを行いながら、今後、組織体制の高齢化や離農者の圃場受入れ増加が予想されることを踏まえ、３年間の実行計画を含めたソリューション（課題解決策）を提案し、各種取組みに着手されています。

リゾケアの直播栽培の様子

作物の低反収の課題に対しては、平均反収の改善が期待できる小麦の新品種「ほしみらい（提案当時は中国173号）」の栽培に着手し、50aの試験栽培から始まり、13haの本格栽培に取り組んだ結果、平均反収の向上（従来品種から約80kg/10a増加）につながっています。

事業承継計画（方針）の検討の提案に対しては、栽培品目（品種）の絞り込み（米と麦に特化）による農作業内容の効率化と次世代へ受け継ぐ項目数を簡素化する方針を打ち出されています。

「ほしみらい」の麦刈りの様子

その取組みのひとつとして、高齢化や労働力不足等を補い、農作業の効率化・省力化を図るため、先進的な機械・ツールの活用を進められており、形が歪な変形田に対応可能な「ロボット田植え機」、「直進アシスト機能付きトラクター」の導入、「ドローン」による追肥・防除に取り組まれています。

また、昨今の地球温暖化に伴う水稲の品質低下への対応として、ＪＡグループ兵庫と兵庫県との共同開発により育成した高温耐性品種である「コ・ノ・ホ・シ」（兵庫県で20年ぶりに開発した独自品種）の試験栽培への圃場提供など、行政との協力関係を築かれているほか、栽培の難しい酒米「山田錦」の栽培に積極的に取り組まれており、倒伏しない栽培技術に定評があり、経営の柱に位置付けられています。

ロボット田植え機による田植えの様子

ドローンによる山田錦への追肥の様子

「コ・ノ・ホ・シ」の稲刈りの様子

今後もスマート農機の活用により、高齢化に伴う労働力減少をカバーしながら持続的な経営基盤の確立を進められるなか、当地域における農業・農地の維持・発展のほか、次世代を担う農業者の育成への貢献が期待されます。